

2012年
3月
第8号

ノオト

ノオトはNPOアスイクが発行するニュースレターです。
発行 NPO法人アスイク
TEL 022-781-5576
URL http://asuiku.sendai-net.com/
Email info@asuiku.org
住所 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡5丁目
3-21コーポ小松 101

トピック

河北新報夕刊に19Tsutsujigaokaの記事の掲載

3月6日の河北新報夕刊3面に、当団体の学習支援センター『19Tsutsujigaoka (じゅーくつつじがおか)』の記事が掲載されました。中学1年生の女子生徒と山形大学のサポーター、NPO法人アスイク代表理事の大橋のインタビューも掲載されています。

この記事を書きかけとしてサポーターの申し込みや新たな支援の申し出もあり、少しずつではありますが支援の輪が広がっています。3月のサポーターの申し込みは10人以上となり、シェアデスクの入居者も2組決まりました。記事を見たことがきっかけで、自分にも何かできるのではと思い、入居を決めたという嬉しいお話も。また行政からもご協力の連絡をいただき、様々な方面との出会いが広がっています。

今後、19Tsutsujigaokaでは子ども向けのワークショップや講座の開催も検討しています。「学習面を伸ばすだけでなく、子どもたちが多様な大人と関わりながら、自分に自信を付けていく場にしたい」。子どもたちの基礎学力の向上はもちろん、多様な市民と関わることで、人と関わる自信をつちかいたり、人生の目標となるような人を見つける機会を提供していきます。

19Tsutsujigaokaでは利用者とサポーター、事務スペースの入居者を募集しております。

お問い合わせは、NPO法人アスイク(022-781-5576)まで、お気軽にどうぞ。(萩原 拓哉)



活動報告

地道な情報発信が、実り始めています

2月に入ってから、講演や講師、原稿執筆の依頼が増えています。

2月20日は、NECの社会貢献室にお声がけいただき、ソーシャルビジネスと復興支援というテーマで50名くらいの社員の前で、お話をさせていただきました。NECに限らず、これまで瓦礫撤去などのボランティアに社員を送り込んできた大企業も、本業の強みを生かした活動へとシフトしようという動きがあらこちらで起きてきています。

続く2月24日は、登米市の起業講座での講師。参加者の中には、南三陸などから避難し、仮設住宅で生活されている方もいました。これまでの仕事を失っている方も多く、これからの人生の選択肢として、どこかに勤めるのではなく自ら仕事を起こそうと考えている方もいらっしゃいます。

そして、2月26日は、経済的に困窮する子どもたちへ学校外教育で自由に使えるクーポン券を提供している一般社団法人Chance For Childrenの「学校外教育フォーラム」での基調講演。私たちが刊行した「3・11被災地子ども白書」の内容をベースに、部分的ではありますが、被災した子どもたちの問題と、これから必要な視点についてお話をさせていただきました。

これ以外にも、教育出版株式会社が発行する「Educo」への寄稿など、執筆のご依頼も増えていきますし、たとえば赤い羽根共同募金のイベント、大阪府人権教育研究協議会の勉強会など、来年度の依頼もいただいています。

私たちは、現場での直接的な活動以上に、現場を基点として大きな動きを生み出していくことを大切にしています。

そういった意味では、さまざまな場で発信させていただく機会をいただけるのは、ありがたいことです。団体立ち上げ当初から

頻繁なブログの更新、3・11被災地子ども白書の刊行など、情報発信に力を入れてきたことが結実している気がします。(大橋 雄介)



活動報告

サポーターたちの卒業

2月25日は、学習サポーターの送別会でした。進学して遠いキャンパスへ移動する山形大学の学生たち。就職して他の地域に転居する学生たち。アスイクに残って活動を続けるメンバーも交えて、みんなでこれまでの感謝と激励のメッセージを送りました。

何人かの卒業生が言葉にしたのが、「ここだけの出会い」への感謝の気持ちでした。子どもとの親密な関係、サポーター同士の絆。そういった人と人とのつながりが、サポーターにとってもかけがえのない収穫になったという言葉聞き、改めて私たちは子どもたちに対して一方的に与える立場ではなく、いただいている側でもあるという意識を強めました。

震災直後から一緒にがんばってきたメンバーがいなくなってしまうのは、寂しいという言葉では言い尽くせないものがあります。しかし、卒業した人たちが新しい場所で、ここでの活動を通して得たことを糧にしてくれるならば、それは素晴らしいこと。またどこかで、さらに成長した彼らと出会えるのが楽しみです。

(大橋 雄介)



サポーター紹介

JR南小泉仮設住宅で活動をしております加藤史也と申します。

—この活動に参加したきっかけは？
既に活動に参加していたサポーターの藤原さんから、高校2年生の数学を教えてほしいと誘われて学習会に参加したことがきっかけです。



—大学ではどんな勉強をしていますか？

惑星大気物理学を勉強しています。海王星が一番きれいで好きなのですが、観測の手が届きにくいので、少し前まで金星の大気の研究をしていました。現在アスイクの活動とは別ですが、仮設住宅を回る移動天文教室「星空探検隊」という活動もしています。望遠鏡を使うと、月のクレーターや惑星の模様まではっきり見えるので、子ども達にも喜んでもらえます。

—アスイクの活動を通して感じることは何ですか？

とてもリラックスした環境で、勉強を教えることばかりではなく、子どもたちとの会話を楽しんでいます。南小泉の学習会は、携わる人がみな安らぎを感じられる素晴らしい活動場所で、それは自治会の方や保護者の皆さま、まちづくり推進課の方など、様々な人々のご協力により成り立っていると学習サポーター一同、本当に感謝しています。

—最後にひと言お願いします。

南小泉の学習サポーターは、子どもの勉強を見るだけでなく、子どもたちに向き合い、そばに寄り添うことの大切さを知っている、子ども好きで熱心なサポーターばかりです。リーダーとして、微力ではありますが、他のサポーターが気兼ねなく活動ができるよう努めていきたいと思っています。(東北大学理学研究科修士課程1年)

スタッフ紹介

こんにちは NPO法人アスイク事務局の和田と申します。

これまで広告代理店での営業、食品メーカーで販売に従事してきました。仕事の影響か、様々な人と話すことが好きで、明るく元気がモットーです。

私自身、奨学金受給で短大に入学し、漠然と家庭の経済状況に関わらず、学びの機会は平等であってほしいと感じていました。

そんな中、前職の職場で震災の影響による母子家庭の現状などを目の当たりにし、「なんとかしなくてはならない」という思いが強くなった時に、アスイクに出会いました。実際に活動に参加して感じたことは、行政や自治会、連携して下さっている民間企業、保護者、サポーターの方々も多くの方に支えられているということ。毎日刺激的です。

未熟者ですが、多くの子どもに学びの機会がどんどん増えるように精一杯努めていきたいと思っています。よろしく願い致します。(和田 寿子)

